

専門分野 I

授業科目(必須)	基礎看護目的・対象論	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次、前期	単位数(時間)	2単位(45時間)
教科書等	系統漢語講座 看護学概論 (医学書院)		
ねらい 看護の対象と看護の基本となる目的及び機能について学習する。人々が健康を保持・増進し、疾病から回復しあるいは安らかな死を迎えるために、看護者が果たす役割について理解する。 目標 1. 看護の基本的概念をふまえて、看護の目的、機能、看護師の役割が理解できる。 2. 看護の対象としての人間を統合体としてとらえる意味が理解できる。 3. 看護の歴史的背景を学び、その時代背景と看護の関連が理解できる。 4. 看護ケアを行う状況の中で、倫理的な視点で考えることができる。 5. 保健・医療・福祉における看護活動の概要が理解できる。 6. 看護における現在の動向について理解できる。 7. 看護管理の基本を理解できる。 授業内容 1. 看護の概念 1)看護とは何か			

授業科目(必須)	看護共通基本技術	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次	単位数(時間)	2単位(60時間)
教科書等	看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (メヂカルフレンド社) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) 系看護 医療安全 (医学書院) NG ヘルスアセスメント(メディカ出版) 他		
ねらい			
看護の技術は、人権の尊重を基盤とした援助であり、実践の科学であることについて理解を深める。 看護師の判断が中心となって実施される日常生活の援助や、診療に伴う看護などを含め、すべての看護行為に共通する基本となる看護技術について学ぶ。			
目標			
1. 看護技術の特徴が理解できる。 2. 安全を守るための援助技術が理解できる。 3. 安楽で、経済的な動きを行うための技術が理解できる。 4. 看護におけるコミュニケーションの重要性が理解できる。 5. 看護場面におけるコミュニケーション技術が理解できる。 6. 看護における観察・記録・報告の方法が理解できる。 7. フィジカルアセスメントの方法を理解し、基本的技術が実施できる。 8. 看護場面における教育・指導技術が理解できる。			
授業内容			
1. 看護技術の概念 (2h) 1)技術とは 2)技術と技能 3)技術の構造 4)看護技術とは 5)看護技術の構造 6)看護技術の特徴 7)看護技術の展開 8)看護実践と倫理			
2. 看護場面における安全安楽 (14h) 1)安全の意義 (1)安全とは (2)人間にとって安全とは (3)看護技術構成要素としての安全 2)安全を阻害する因子 (1)患者がもつ阻害因子(2)看護師がもつ阻害因子(3)その他の阻害因子 3)安全への援助 (1)事故防止 (2)抑制法 (3)無菌操作 4)安楽の意義 5)安楽を阻害する因子 6)安楽への援助 7)技術演習 無菌操作 ガウンテクニック			
3. 看護場面におけるコミュニケーション (10h) 1)コミュニケーションの概念 2)コミュニケーションに影響を及ぼす因子 3)看護場面におけるコミュニケーション			
4. 観察・記録・報告 (8h) 1)観察の意義 2)観察の目的 3)観察の条件 4)観察の方法 5)観察の要点 6)観察後の処理と判断 7)記録の重要性 8)医療における記録 9)看護記録 10)報告の重要性 11)報告の種類 12)報告の実際 9)守秘義務			
5. フィジカルアセスメント (20h) 1)フィジカルアセスメントの意義 2)フィジカルアセスメントの目的 3)フィジカルアセスメントの基本技術 4)バイタルサインの観察 5)系統的フィジカルアセスメント			
6. 教育・指導 (4h) 1)教育・指導の概念 2)看護における教育・指導 3)教育指導の方法			
方法			
講義 演習			
評価 筆記試験、レポート等により総合して行う(レポート評価基準は授業で説明する)			
その他			
この科目は、看護援助の実施の基盤となる技術を学習する。看護者は対象に安全で安楽な看護技術を提供しなければならない。また、対象との関係形成や、対象を適切に捉えることが必要である。そのための知識や技術を身につける。関連科目としては、心理学、人間関係論、微生物学、人体の構造と機能等が特に重要である。			

授業科目(必須)	環境を整える看護技術	担当教員	
対象学年、開講時期	1学年 前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メヂカルフレンド社) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) ベッドまわりの環境学(医学書院) 他		
ねらい 看護とは様々な健康段階にある対象に、より健康に近づけた日常生活が送れるよう援助することである。看護の原則となる安全・安楽・自立に向け、最も適した援助を理論的に裏付けされた方法で行えるよう実践する必要がある。ここでは、看護実践のうえで基本となる援助技術を学ぶ。人間は環境と相互に作用しあっており、環境の善し悪しが健康や生活行動の質を左右する。より健康的な生活を送るための調整方法や技術について理解する。 目標 1. 人間にとっての健康な日常生活と環境の関連について理解できる。 2. 快適な療養生活を送るための環境調整の方法が理解できる。 3. 療養環境を整えるために必要な援助技術が実施できる。 4. 活動・睡眠・休息を助けるために必要な援助技術が理解できる。 授業内容 1. 環境を整える援助技術(24h) 1)環境の意義 (1)健康と環境 (2)個人を尊重した環境とは (3)室内環境条件 (4)快適な環境を整えるとは (5)病院と環境 2)環境を整えるためのアセスメントの視点 3)環境を整えるための援助 (1)病床の整備 (2)病床の作り方(技術演習)ベッドメイキング・シーツ交換 (3)病室環境の整備 2. 活動・睡眠・休息を助ける援助技術(6h) 1)活動・睡眠・休息の意味 2)活動・睡眠・休息に及ぼす要因 3)活動・睡眠・休息を助けるためのアセスメントの視点 4)活動・睡眠・休息を助けるための援助方法 講義・グループ演習・技術演習・事例を用いた技術検討			
評価 筆記試験、技術テスト(ベッドメイキング)技術テストの基準は別に定め授業で説明する			
その他 人間にとって健康な日常生活を送るとはということかを理解し、対象の日常生活をアセスメントするための視点を理解することが必要である。日常生活の援助の実施にあたっては、科学的根拠を明確にして実施する必要がある。日常生活の援助として、実施頻度が高く基本的な技術としてベッドメイキングの技術試験を行う			

授業科目(必須)	身体を快適に整える看護技術	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次 前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メヂカルフレンド社) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) 他		
ねらい			
看護とは様々な健康段階にある対象に、より健康に近づけた日常生活が送れるよう援助することである。看護の原則となる安全・安楽・自立に向け、最も適した援助を理論的に裏付けされた方法で行えるよう実践する必要がある。身体を清潔に快適にすることは、人間が尊厳を持ちその人らしく生きるために重要である。その基本となるのが、衣服や身体を清潔に整えることである。心身ともに快適にする看護技術の基本を学ぶ。			
目標			
1. 身体の清潔を保つ援助を行うために必要な知識が理解できる。 2. その人らしさを保つための身体の清潔の援助技術が実施できる。 3. 衣服の選択や着脱を行うために必要となる知識が理解できる。 4. その人らしさを尊重した寝衣の着脱の援助技術ができる。			
授業内容			
1. 身体の清潔を保つ援助方法 (20h) 1) 身体の清潔の意義 2) 身体の清潔に影響を及ぼす因子 3) 身体の清潔を助けるためのアセスメントの視点 4) その人らしさを保つための身体の清潔の援助方法 (1) 頭髪を清潔にする援助方法 (2) 皮膚・粘膜を清潔にする援助方法 (3) 口腔を清潔にする援助方法 (4) 技術演習 全身清拭 足浴 洗髪 口腔ケア 2. 衣服の着脱を助ける援助技術 (8h) 1) 衣服の意義 2) 衣服の着脱に影響を及ぼす要因 3) その人らしい衣服の着脱を助けるためのアセスメントの視点 4) 病人にとっての衣服の意義 (1) 選択時の条件 (2) 病衣の条件 5) その人らしい衣服の着脱を助ける援助方法 (1) 病衣の選択 (2) 病衣の交換・寝衣交換 6) 技術演習 和式寝衣の交換 パジャマ交換			
方法			
講義・VTR視聴・技術演習・事例を用いた技術検討			
評価			
筆記試験、技術テスト(清拭・寝衣交換、洗髪)技術テストの基準は別に定め授業で説明する			
その他			
人間が健康的な日常生活を送るとはどういうことかを考え、対象の日常生活をアセスメントするための視点を理解することが必要である。日常生活の援助の実施にあたっては、科学的根拠を明確にして実施する必要がある。そこで、人体の構造と機能をふまえて学習する必要がある。日常生活の援助として、実施頻度が高く、基本的な技術として、3項目の技術試験を行う。			

授業科目(必須)	活動を整える看護技術	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次 前期・後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	看護学全書 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) ナースング・グラフィカ ヘルスアセスメント (メディカ出版) 他		
ねらい			
看護とは様々な健康段階にある対象に、より健康に近づけた日常生活が送れるよう援助することである。看護の原則となる安全・安楽・自立に向け、最も適した援助を理論的に裏付けされた方法で行えるよう実践する必要がある。ここでは、人間が生きるため、また、より健康的に生活するためには日常生活における活動を理解し、快適に整えるための方法や技術を理解する。			
目標			
1. 身体の姿勢・移動を保つための援助技術が実施できる。 2. 適切な食事を助けるために必要な援助技術が実施できる。 3. 自然な排泄を助けるために必要な援助技術が実施できる。 4. 排泄行動に障害がある、排泄異常のある対象への援助方法が理解できる。 5. 技術演習の患者体験を通して対象の気持ちや心情に配慮することに気づく。			
授業内容			
1. 身体の姿勢・移動を助ける援助技術 (8h) 1) 姿勢・移動の概念 2) 姿勢・移動に影響を及ぼす要因・ボディメカニクス(動作の経済性を高める技術) 3) 姿勢・移動を助けるためのアセスメントの視点 4) 姿勢・移動を助ける援助方法 5) 技術演習: ・安楽な姿勢の保持 ・体位変換 ・移送 2. 適切な食事を助ける援助技術 (6h) 1) 食事の意義 2) 食事に影響を及ぼす要因 3) 適切な食事を助けるためのアセスメント 4) 適切な食事 5) 病人と食事 6) 適切な食事を助ける援助技術 3. 自然な排泄を助ける援助技術 (14h) 1) 排泄の意義 2) 排泄に影響を及ぼす要因 3) 自然な排泄を助けるためのアセスメントの視点 4) 自然排泄の援助方法 5) 排泄行動に障害のある人への援助方法 6) 排泄異常のある人への援助方法			
方法	講義、VTR視聴、技術演習		
評価	筆記試験		
その他			

授業科目(必須)	診療に伴う看護技術	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次 後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メヂカルフレンド社) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) 他		
ねらい 少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、看護を取り巻く社会の状況は著しく変化している。また、人々の医療に対するニーズや健康に対しての価値観が多様化しており、これらに対応できる質の高い看護が求められている。患者の安全を保障し、患者が安心して診療が受けられるよう責任と倫理観を養いながら、基本的知識と技術の習得を目指す。ここでは臨床で必須となる技術の中でも、身体侵襲性の高い専門的な技術について学ぶ。 目標 1. 診察・検査時の看護の役割が理解できる。 2. 診察・検査時の援助方法が理解できる。 3. 治療・処置に関わる基礎的知識が理解できる。 4. 診察・検査・処置における責任と倫理観を養う。 授業内容 1. 診療に伴う基本的看護技術 (20h) 1) 診察場面における看護の意義 2) 診察の意義 (1) 診察とは (2) 診察の目的 (3) 診察場面におけるインフォームドコンセント 3) 診察の方法 (視診・問診・触診・打診・聴診) 4) 診察を受ける患者の心理 5) 診察における看護師の役割 6) 診察時の援助 (1) 診察過程における援助 7) 検査の意義 8) 検査の種類 (1) 生体検査 (2) 検体検査 (3) 心理検査 9) 検査に影響を及ぼす要因 10) 検査を受ける患者の心理 11) 検査における看護師の役割 (1) インフォームドコンセント (2) 安全を守る (3) 苦痛の軽減 12) 検査時の援助 (1) 検査前 (2) 検査中 (3) 検査後 13) 技術演習: 静脈血採血 3. 治療・処置における基本的看護技術 (10h) 1) 酸素療法 2) 体位ドレナージ 3) 吸引 4) 吸入 5) 罨法 6) 技術演習: 酸素ボンベの取り扱い、気道内吸引、温枕・氷枕の作成 方法 講義・グループ演習・技術演習			
評価方法	筆記試験・演習課題・技術演習の取り組み姿勢(評価基準は授業で説明する)		
その他 共通基本技術の安全、人体の構造と機能、臨床薬理などの既習の知識を基にして授業がすすめられます。特に技術の実施においては、関連領域の解剖生理について、十分な理解が求められます。			

授業科目(必須)	薬物療法に伴う看護技術	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次 後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メヂカルフレンド社) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) 医療安全ワークブック (医学書院) 他		
ねらい			
薬物療法は疾病の治療や症状のコントロールおよび疾病の予防において適切に実施されることが重要であり、薬物療法における看護師の役割と責任は拡大している。ベッドサイドにあつて安全な技術を提供するために、エビデンスとしての知識を活用し、さらにリスク感性を養い、安全な医療を提供できる基礎的能力を養う。			
目標			
1. 薬物療法・与薬に関わる看護師の役割が理解できる。 2. 経口与薬、皮下注射、点滴静脈内注射の基本的技術が実施できる。 3. 与薬時の様々な危険性を理解し、确实・安全な与薬ができるための方法がわかる。 4. 薬物療法における看護師の責任と倫理観を養う。			
授業内容			
1. 薬物療法とは 1)薬物療法における与薬の意義 2)与薬を受ける患者の心理 2. 薬物療法における看護師の役割 1)与薬の過程と各職種の役割 2)薬物の管理と保管 3)患者のアドヒアランス能力を高める援助 4)确实な与薬 (1)人間の陥りやすいエラー構造の特徴と与薬 (2)与薬法の基本原則＜3確認6right＞ 5)観察と報告 3. 与薬の方法 (1) 経口与薬法 (2)注射法 (3)経直腸的与薬法 (4)その他の方法 4. 与薬方法の実際 技術演習:経口与薬法 ・皮下注射 ・筋肉内注射 ・点滴静脈内注射 5. 輸血療法			
方法			
講義. グループ演習. 技術演習. VTR			
評価方法 筆記試験			
その他			
共通基本技術の安全、人体の構造と機能、臨床薬理などの既習の知識を基にして授業がすすめられます。特に技術の実施においては、関連領域の解剖生理について、十分な理解が求められます。			

授業科目(必須)	臨床看護総論	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系統看護学講座 臨床看護総論 (医学書院)		
ねらい 今日の臨床の現状をふまえ、各臨床領域の看護学を学ぶために、共通の基本的な看護について学び、各看護学に発展・拡大することをねらいとする。 経過および健康障害に応じた看護や、治療処置の基本的看護の方法を学ぶ。 目 標 1. 臨床の看護の場の特徴が理解できる。 2. 医療を取り巻く環境の変化が臨床現場にどのような影響を与えているか理解する。 3. 健康問題を経過及び症状という視点から捉え、それぞれの特徴や各期に応じた看護を理解する。 4. 看護に活用する医療機器の原理と実際について理解する。 授業内容 1. 臨床看護とは 2. 今日の臨床の姿と看護の活動の場 1)入院医療の場 2)通院医療の場としての病院外来 3)在宅医療の場 4)病院における健診システム 3. 症状をもつ人への看護 1)症状とは 2)症状のとらえ方 3)主要症状と看護 4. 経過からみた健康問題と看護の特性 1)経過別看護とは 2)急性期にある患者の特徴と看護(生命危機状態の患者の看護を含む) 3)回復期にある患者の特徴と看護 4)慢性期にある患者の特徴と看護 5)終末期にある患者の特徴と看護 5. 医療機器を必要としている患者の看護 1)MEの基本 2)ME機器の安全管理 3)ME機器と患者 4)ME機器の実際 方 法 講義 演習			
評価方法 筆記試験			
その他			

授業科目(必須)	看護過程展開の技術	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次 後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント(メディカ出版) 看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (メディカルフレンド社) NANDA看護診断 定義と分類 (医学書院) 中範囲理論入門(日総研) ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 (ヌーベルヒルワ)		
ねらい 看護過程(Nursing Process)とは、対象となる人々の健康上の問題を解決するために、科学的な問題解決法に基づくシステム化された一連の活動である。健康上の問題を導き出すために、対象の情報を収集をすることが重要である。正確な情報を収集することができる技術の一つとしてフィジカルアセスメントの方法を活用することを理解する。看護過程の展開では、事例を通し情報収集、アセスメント、看護診断、計画立案、について学び、看護の科学性を支える理論基盤を身につける。 目標 1. 看護過程の概念が理解できる。 2. 看護過程の各構成要素が理解できる。 3. 看護過程の展開方法が理解できる。 4. フィジカルアセスメントを活用することを理解できる。 授業内容 1. 看護過程とは 2. 看護診断の必要性 3. 看護過程の構成要素 4. 事例による看護過程の実際 方法 講義、紙上患者の看護過程の展開(個人学習、グループ討議)			
評価 : 筆記試験 演習事例によるアセスメント、計画立案までの事例展開を評価する。(演習評価基準は別に示す)			
その他 看護の方法は、科学的問題解決法を基盤としたものであり、その科学的思考および看護過程の展開の技術を学習する。そのため、既習の知識を統合する必要がある。したがって、復習が重要である。「看護共通基本技術」をはじめ各看護技術、「人体の構造と機能」「疾病論」などの科目と関連がある。また事例を用いて学習するため、事前学習、自己学習に相当時間を必要とする。			

授業科目(必須)	看護研究の基礎	担当教員	
対象学年、開講時期	2年次後期	単位数(時間)	1単位(15時間)
教科書等	系看 看護研究 (医学書院) 看護学生のためのケース・スタディ 第4版 (メヂカルフレンド社) 他		
ねらい 看護は実践の科学といわれる。看護実践の科学的根拠を得る手段が看護研究である。看護の専門性を高めるために看護研究の必要性を理解し、将来、研究や看護ケアの改善方法を考案する糸口になることをねらいとする。 そのため、研究とはどのようなものかを知る。さらに看護研究の特性、研究方法、研究過程、研究倫理などの基礎的知識を学ぶ。			
目 標 1. 研究とは何かを理解し、説明できる。 2. 看護研究がなぜ必要かを理解し、説明できる。 3. 看護研究を行うための必要な、考え方や研究方法を理解し、説明できる。 4. 看護研究に必要な、文献検索や研究計画書について理解し、説明できる。 5. 看護研究と倫理的配慮について説明できる。 6. 看護におけるケーススタディの意義が述べられる。			
授業内容 1. 研究とは 2. 研究の基本的理解 3. 看護研究を行う上での倫理の原則 4. 研究の進め方 5. 研究における文献検索の意義 6. 文献検索の方法 7. 文献の読み方 8. 看護研究の必要性 9. 看護研究論文の作成と発表 10. 看護研究の今後の課題 11. 研究的手法によるケーススタディ			
方 法 講義 演習			
評価方法 ・筆記試験、			
その他 専門職である看護師は、対象者によりよい看護を提供するために、看護上問題になっていることを解明し、よりよい方法をみいだす必要があります。そのためには、様々な研究が必要です。研究の基礎的な知識を学び、看護実践を振り返り、研究的視点で分析、考察していくことにより、研究的に臨む姿勢を身につけましょう。			

授業科目(必須)	日常生活を整える看護実習	担当教員	専任教員
対象学年、開講時期	1年次	単位数(時間)	1単位(45時間)
実習場所	東京山手メディカルセンター 病棟、院内施設		
実習目的			
1. 入院患者の環境を理解する。			
2. 対象の基本的欲求を把握し、必要な日常生活援助を学ぶ。			
実習目標			
1. 患者の入院生活の実際を知る。			
2. 患者の生活を支える施設、設備、医療チームメンバーを知る。			
3. 患者の情報から基本的欲求の充足、未充足状態を判断し、日常生活の援助が計画できる。			
4. 患者に適した日常生活の援助が実施できる。			
5. 実施した援助の評価ができる。			
6. 実施した援助の記録・報告ができ、看護チームの一員としての認識がもてる。			
7. 患者を尊重した関わりができる。			
内容			
1. 入院患者の生活の見学			
2. 患者の生活を支える施設・設備、医療チームメンバーの見学			
3. 患者の健康障害や入院生活によって生じる制約や患者の受け止め方			
4. 患者の基本的欲求の充足・未充足状態の判断と援助の関連づけ			
5. 患者に必要な日常生活の援助			
6. 患者の反応をふまえた評価			
7. 行った援助内容、患者の反応の記録と報告			
方法			
病院内の患者の生活や治療を支える施設を見学し、それぞれの役割や職種について理解する。			
患者を1名受け持ち日常生活の援助を中心に実習する。			
受け持ち患者は、以下のような条件を考慮する			
・身の回りの援助が必要な患者			
・言語的コミュニケーションの図れる患者			
・状態の安定している患者			
・感染症のない患者			
毎日カンファレンスを行い、学びの共有をする。			
評価	看護実践、記録物、カンファレンスの参加度など		
その他			

授業科目(必須)	看護過程展開の基礎実習	担当教員	専任教員
対象学年、開講時期	2年次 前期	単位数(時間)	2単位(90時間)
実習場所	東京山手メディカルセンター 病棟		
実習目的			
看護過程の理論を活用して対象の健康上の問題を捉え、患者に必要な日常生活の援助を体験し看護実践の基礎を学ぶ。			
実習目標			
1. 患者の状態を観察し、情報の収集・整理ができる。			
2. 整理した情報の解釈分析を行い看護上の問題が明らかにできる。			
3. 看護上の優先順位を考え、患者の状態に合わせた援助が具体的に立案できる。			
4. 立案した看護計画に沿って援助の実施・評価ができる。			
5. 実施した援助の記録・報告ができる。			
内容			
1. 患者のおかれている状況の観察と収集した情報の整理			
2. 整理した情報のアセスメント			
3. 看護上の問題の抽出			
4. 実施する援助技術の計画立案			
5. 安全安楽を考慮した援助技術の実施			
6. 患者の反応をふまえた実施援助の評価			
7. 行った援助内容、患者の反応の記録と報告			
方法			
成人老年の患者を1名受け持ち日常生活の援助を中心に実習する。			
看護技術は学習済みの範囲で実施する。			
カンファレンスを行い、看護過程の理解を深める。			
評価			
看護実践、記録物、カンファレンスの参加度など(実習評価基準は別に定め事前に説明をする)			
その他			
「日常生活を整える看護実習」、「看護過程展開の技術」の履修が必要である。			